

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あげぼの苑	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県宮崎市田野町あげぼの2丁目2-1		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kanistrue&amp;liyosvoCd=4571500471-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kanistrue&amp;liyosvoCd=4571500471-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑全体での年間行事(花見・夕涼み会・敬老会・紅葉狩り)、月1回のドライブ(故郷訪問)や外出支援を行っている。月1回の地域のボランティアの方々による(紙芝居)夕涼み会、敬老会開催時の踊り、歌などのボランティアの方々が多く来苑して頂き、地域の方々との馴染める関係が築けるよう努力している。利用者同士のコミュニケーション、体力維持を図る為のリハビリ体操やレクリエーション(ボール遊び、輪投げ、カラオケ)を取り入れている。個々の残存能力を活かせるよう、盛り付け、材料の下ごしらえ、トレー拭き、洗濯物たたみ、干し等の生活リハビリの充実に努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年に設立されたグループホームあげぼの苑は、2ユニットが廊下で連なり、利用者は、それぞれ家庭的な雰囲気の中、表情穏やかに思い思いの生活をしている。理念である「優しい言葉かけ・笑顔」を大切に、接遇面での勉強会も積極的に取り入れ、呼称時は「さん」付けで、苗字・名前前で呼んでいる。昨年12月から厨房専任職員(半月勤務)を配置して職員が利用者寄り添う時間を増やし、ケアの向上につなげている。定期的なドライブ、買い物、自宅近辺のドライブは、継続実施している。新興住宅地であるが、近年周辺に住宅も増え、今後、地域との交流の輪を広げるための努力・工夫を全職員で検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着」の意味を全職員に理解してもらうよう努めているが、十分な理解は得ていない。		地域密着型サービスについては、全職員が十分に理解していないため、昨年に引き続き、月1回のカンファレンス時に勉強をしている。理念については、共有しているものの実践につながるまでには至っていない。	理念が設立当時のものである。現状に沿った理念を、全職員で話し合い、文言化し、定期的な評価をしながら共有・実践につなげることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常日頃より見学者の受け入れを積極的に行っている。年1回の「夕涼み会」では、地域住民への参加を呼び掛けたり、「敬老会」と同様に地域の方のボランティアによる歌や踊りを利用者は楽しめる。月に1回程度ではあるが、買い物で外出される方もいる。		周辺は新興住宅地で自治会もないが、年1回の夕涼み会では、地域住民に参加の声掛けを行い、地域との交流の機会を設けている。ボランティアによる、月1回の紙芝居も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が「いきいきサロン」に参加する等の活動の中で、事業所の内容や認知症への理解を深めてもらえるよう努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑内だけの会議にならないよう、事務長や役員が多方面に声掛け等を行い、働きかけているが、まだなかなか難しい面があり、参加できていない。		定期的な会議は開催しているが、出席者の横のつながりがなく、同じメンバーのため、報告事項が主体となっている。地域包括支援センター職員が、今までは年3回出席していたが、次回より毎回参加する予定である。	運営推進会議に、有識者の参加を促し、多面から様々な情報をもらうことで、利用者のケアの質向上につながるよう努力・実践していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営者は常々本庁や総合支所に出向き、相談や実情の報告等を行い、連携をとっている。運営者は機会を作り、総合支所・地域包括支援センターに出向き、相談を行い、連携をとっている。		運営者が直接市担当窓口へ出向き、関係者と相談や報告をすることにより、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。		カンファレンス時に、身体拘束をしないケアを取り上げ、定期的に全職員で共有している。現場で気付いた時は、直接その場で助言・指導を行っている。玄関は開錠してある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある毎に話し合いを持ち、虐待に繋がる事がないよう、見過ごされる事がないよう、注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会ある毎に話し合いを行い、入居時には必ず家族等に対して説明し、情報の提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には十分な説明を行い、理解していただいている。・不安な事や疑問はないか尋ね、それに対しては理解していただくように努め、納得していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の会」発足に努めているが、各ご家庭に於いて、それぞれの諸事情があり、困難を極めており、設立には至っていない。		来訪時や定期的な担当者会議出席時に意見を聞いたり、日頃から「何かありませんか？」など問いかけ、意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の合同カンファレンスを利用したり、業務の合間でも意見や提案を聞くようにしており、反映できるよう努めている。		日頃から管理者は職員に声掛けを行い、意見を吸い上げる努力をしている。また、意見を言いやすい雰囲気や環境を整え、項目や内容によっては、すぐに対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のカンファレンスに参加している。社会保険労務士、会計士にも介入していただき、管理している。行事にもできるだけ参加し、職員、利用者と触れ合う時間を作っている。今回、給与の見直しも行った。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今回調理の職員を入れる事で人員に余裕ができ、研修等にできるだけ参加していただきたいと思っている。参加された場合、合同カンファレンスの場で研修報告をしていただいている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター等にはよく顔を出している。近隣にできた医療機関へも挨拶に行き、勉強会に参加もした。また、事務長が「いきいきサロン」の実行を行っており、ネットワーク作りはしていると思う。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談等で得た、本人やご家族の要望・不安な事を参考にしたサービス導入を行い、入居後しばらくは特に言動に気を配り、ご本人の安心を確保する為の関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後の面会、さらには定期的な担当者会議で不安や要望を聞き出せるように声掛けを行い、安心して頂けるような対応に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーが積極的に窓口となって家族の意見や要望を聞き、担当者・管理者と情報を共有して、必要としている支援を見極め、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものを一緒に干していただいたり、食後のトレイ拭き、新聞紙折り等、各々のできる範囲で職員と共に رفتったりして、日常生活を共に支える関係がある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ずご本人の日々の様子や体調の変化等を伝え、安心と絆を維持できるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・親族、知人の訪問を常に受け入れている。・ご家族との外出、外泊も支援しており、職員と共に馴染みの店へ買い物・外出する事もある。		親戚や知人の来訪がある。自宅に帰ることは、一人ひとりの家庭状況が異なり難しいケースもあるが、自宅近辺をドライブしたり、買い物支援などは実施できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりやすい環境作りに努めている。時には職員が間に入って声掛けをし、一人ひとりの意見を尊重しつつ、関わりあいのきっかけ作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を希望される方や家族に対しては、できる限り支援するようにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン更新時には、必ず本人の希望や意向を聞き、プランに反映できるようにしている。買い物希望される方には月1回のショッピングを行っている。		一人ひとりの思いや希望が聞けない方に対しては、日ごろの言動や表情からくみ取り、職員の声掛けで、思いや意向の把握につなげる努力を日々行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やそれ以外の親族の方、又は、主治医、担当看護師等と連携をとり、情報収集に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、カルテに1日の過ごし方を一人ひとり記録しており、朝、バイタルチェックにて体調把握をしている。申し送りにて職員全員がその情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、キーパーソン、看護師、担当等、モニタリングを行い、互いの考え方を話し合い、チームケアに努めている。		定期的な介護計画とモニタリングは、担当者も毎回参加して実践できている。担当者会議は家族参加を優先し、事前に都合の良い日を選択してもらい、日時の設定をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別対応ができるよう、各々のカルテや日誌にその日気付いた事を記録している。モニタリングを行う事で、ケアプランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により、外食やショッピングに行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・月に1回は地域のボランティアの方が来られ、町内にまつわる昔話の紙芝居をしてくださいったり、年1回の保育園児の慰問、2カ月に1度の近所の美容師の方による散髪などを行っている。・個人では少数であるも、日用品の買い出しを職員と共に近くの店まで行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を重視し、納得が得られた各々のかかりつけ医での受診ができています。かかりつけ医と事業所との関係も良く、常時、受診や相談ができます。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで利用者の情報を共有し、異常や変化を見逃さないようにしている。発見した際は、その都度看護職に伝え、相談し、必要な時には受診している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院関係者とは密に連絡を取り、情報交換や相談を行っている。また、面会に行くと、本人・ご家族との関係を維持できるよう努力している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前回「具体的な文書化がされていない」との指摘があり、十分ではないが文書化した。		重度化や終末期に向けた方針については、入居時に説明はするが、今回文書化したものを作成しており、必要と思われる際は、家族に対し説明と同意を得ている。途中で変更が生じたときにも柔軟な対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・基本マニュアルの作成。・研修や講習会に全職員が参加できるよう取り組み、合同カンファレンスの際に報告、勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練は年2回、消防署員の指導のもとで実施しているが、まだ自治会もない為、協力を得る事ができていない。			
					地域の消防団員や地区役員などに積極的な声掛けを行い、実際に避難訓練に参加してもらうなどの工夫や努力を期待したい。また、水や食料、おむつなどの備蓄をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩である事を忘れず、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけに努めている。 ・また、利用者個人の申し送り等を行う際も、各々の誇りやプライバシーを損ねないように十分に気を付けている。	特にトイレや入浴介助の際、プライバシーを損ねないように、一人ひとりに合わせた言葉かけ、ケアをしている。呼称時は、ちゃん付けではなく、苗字や名前で呼ぶなど、人格の尊重にも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り寄り添うように努め、本人の思いや希望を引き出せるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中はバイタルチェックやレクリエーションの参加の為ホールへ集まって頂き、職員や利用者交流を図るようにしているが、午後は各々のペースで自由に居室やホールで過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行事参加や外出の際には、日頃とは違った身だしなみを本人と共に考え、支援している。 ・日常でも身だしなみには気を使っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・時には利用者の方に好みの物を尋ね、それを取り入れられるようなメニューを考えて、下ごしらえや後片付けをできる範囲で手伝っていただいている。 ・毎食のメニューを説明し、共にとっている。	盛り付けを一緒にしたり、もやしの根を取ったり、エプロンをたたんだり、一人ひとりの能力に合わせて参加してもらっている。利用者に、何が食べたいかを聞き、時には取り入れることもある。同じメニューを職員も同じテーブルで食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・偏った献立にならないよう、栄養のバランスに配慮している。 ・食事の摂取量は毎回記録しており、水分量に関しても必要と思われる方はチェックし、十分に確保できるように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、全員行っている。 ・義歯消毒は、月2回行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を定期的に行い、その都度排泄意識を持つような声掛けをする事で、自立に向けた支援を行っている。・夜間にオムツを使用されている方でも、日中はトイレでの排泄支援を行っている。	入院して再入居時は、ほとんどオムツ着用になる方が多いが、オムツを外し、リハビリパンツに変更している。排せつ自立の意欲に向けた取組が、積極的に実践されている。日中は、全利用者を定時にトイレ誘導し、排せつできるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェックは毎日行い、日常より多めに水分補給をしたり、腹部マッサージや歩行運動等の対応を行っている。 ・かかりつけ医に相談し、緩下剤の処方をお願いしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は難しい。 ・現在は二日置きに、午後一人ずつ行っている。	入浴は基本的には2日に1回であるが、柔軟に対応している。浴室と更衣室は暖房で温めてあり、シャワー浴の場合は足浴しながら行うなどの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・午前中のレクリエーション参加でも、本人の希望で参加されずに休まれる事あり。午後は各々ソファーや居室で横になって休まっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・用法、用量についてはカルテに綴じてある説明書を読んで理解し、変更時には申し送りを密に行っている。・服薬支援も各々に応じた方法で確実にし、病状の変化も逃さないよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その人に合った役割をプランの中に取り入れ、日常生活の中で楽しみや張り合いを感じて頂けるよう支援している。 ・雑誌・CDの提供。書写、散歩、買い物など。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は外気浴として苑の周りの散歩に出かけている。 ・ご家族が協力的に外出して下さる方もおられる。・少数の方ではあるが、買い物の支援も行っている。	一人ひとりのその日の希望に沿った外出支援はできていないが、定期的なドライブや自宅周辺までのドライブは実践している。当日の気象情報に合わせ、近隣を散歩することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日常的に各々が所持するという事はない。 ・紅葉狩りの際や月1回の買い物支援を行っている方もおられる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでの席の配置やソファの位置などを考えたり、季節に合った音楽を流したり、飾り付けをする事で、生活感や季節感を取り入れるよう工夫している。		共用空間は、エアコンや加湿器により、適切な温度・湿度に調整されている。食堂には季節の花を生け、ジグソーパズルや鉛筆画なども飾っており、居心地良く過ごせる空間となるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度、ご希望に応じて席の移動を行い、TVの前やあるいはソファで横になられたり、あるいは気の合う方々が談笑される等、思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々が居心地良く過ごして頂けるよう、使い慣れた家具を持ち込まれたり、ご家族の写真飾られたり、逆にシンプルな居室にされたりと、その方に合った居室作りを行っている。		電動ベッド・畳の部屋・マットレスの高さなど、一人ひとりに合わせて配置してある。マットレスから転落しないように、ベッドの向きが本人の寝る時の習慣を配慮して配置されている。利用者に合わせ、遺影・仏壇、家族写真など、なじみの品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手摺りの設置、床はバリアフリー、夜間のセンサー式照明。 ・トイレや各々の居室には分かりやすいような目印を表示している。			